様式1 # 令和元年度　山梨県立中央高等学校通信制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	確かな学力の育成・自立する力の育成・健やかな心体の育成に努める

山梨県立中央高等学校校長　川手 正昭

本年度の重点目標	
	「わかる授業」を推進し、レポート作成を通じて主体的に学び、学力の向上をより一層図れるよう工夫改善に努める。
	学校行事やLHRを通じて仲間との交流を深め他者との協働を図り、社会において自立できる生徒を育てる。
	基本的な生活習慣を身につけ、生涯を通じて健康で安全な生活を送ることのできる態度を育てる。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

番号	本年度の重点目標：評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価（令和2年2月2日現在）：自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	学校関係者評価（実施日 （令和2年2月27日））：評価	意見・要望等
1	「分かる授業」を推進し、生徒が主体的に取り組めるレポートの作成を通じて学習意欲の向上を図り、学力の向上に繋げる	生徒にとって「分かりやすい授業」を展開し、自学自習に取り組めるレポートの作成を行う 生徒の学習状況に合わせた丁寧な添削指導を行い、個別指導を推進する スクーリング日以外の日の登校も促し、個別の学習要求に対して指導を行う	授業アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート 授業アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート	・生徒の学校改善アンケートでは「66.0%」がよく分かる、「29.8%」が分かると評価している。 ・生徒一人一人を大切にする指導について「97.9%」の生徒が評価している。 ・年度途中で履修不可（レポート未提出、出席不可）となる生徒も散見され、履修を継続と単位修得を着実に進められる指導改善が引き続き急務である。 ・修得0単位の生徒割合は「22.8%」であった。	B	・単位修得状況は各教科により異なるが自学自習に取り組みやすいレポートの編成、面接指導での分かり「納得感」が残る授業、自己達成感が伴う「評価」の工夫改善を目指す。 ・生徒がレポート提出状況を自己確認出来る校務支援システム構築を進めたい。 ・単位修得に至る過程で「自ら思考し判断表現できる力」を評価する方向で検討を進める。	3	・限られた機会の中における教員と生徒の交流を大切にして、生徒の希望やニーズに沿った学習と履修の継続、単位修得、卒業の目的が果たせるようさらに指導の工夫を重ねることが期待される。 ・学習に挫折した生徒に対する指導をより充実させ、再挑戦できるような環境づくりに努めてほしい。 ・ICT等を活用した公務システムの充実やスモールステップでの問題提示・評価手法の開発を進め、生徒の意欲の喚起に努めてほしい。
2	仲間との協働の中で各自が成就感・達成感を積み重ねて自信を深め、社会的・職業的自立に向けた態度を育てる	学校行事等に参加する中で、自他を認め合う人間関係やコミュニケーション能力を育てる レポートの提出・スクーリングの出席といった小さな成功体験を積み重ね、自尊感情を高める SC・SSW・高校生こころのサポートルームなど関係機関との連携により生徒支援を充実させる	学校評価アンケート 職員アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート	・ｽｸｰﾘﾝｸﾞ時、清掃美化活動への自主的取り組みを「97.9%」の生徒が評価している。 ・遠足や学園祭等への行事参加は4割程度という状況であるが、参加生徒からは「91.5%」の肯定的評価をえている。 ・SC、こころのｻﾎﾟｰﾄルーム、SSW等、支援機関との連携をさらに深め、生徒の状況把握と職員間での共通理解を深めた。	B	・生徒会自主取組による「あいさつ運動」「地域清掃」等社会性を身につける体験活動を進めているが、内容範囲を広げたい。 ・遠足や学園祭等の行事参加率は「45%」程度で推移している状況であり、参加生徒の活動状況は向上している。内容の進化、生徒自身の積極性を引き出す工夫など継続して改善に取り組む。	3	・行事や生活面での、生徒の前向きな行動を期待したい。 ・主体的な意欲を持って学校行事に取り組めるような指導の充実に努めてもらいたい。 ・孤独な思いや疎外された思いを持っていた生徒がいる中で、豊かな人間性を育むことができる機会をできるだけ多く設けることや、家庭・地域との連携によって協調性と自己肯定感を伸長できるような指導に努めてもらいたい。 ・学校行事等については、通信制課程としての難しさがあると思われるが、進路指導等を含めてより充実した指導の工夫に努めてもらいたい。
3	基本的な生活習慣の確立と、健康で安全・安心な生活を送ることのできる態度を身につける	レポートの提出・スクーリングの出席を通じて、期日・時間を守ることの大切さを身につけさせる 自己の生き方・在り方について考え、主体的に生きる態度を育てる	授業アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート 授業アンケート 学校評価アンケート 職員アンケート	・ﾚﾎﾟｰﾄ提出期限を自らが確認し、そのｽｹｼﾞｭｰﾙに則り学習に取り組む継続性の確立に向けた指導には課題が残る。 ・通信制を選択してくる生徒たちからの多様な学びのニーズに応える指導はまだいくつもの課題を残す。 ・学校における「悩みを相談できる人の存在」については「61.7%」とやや低い。生き方在り方や道徳について考えさせる指導も「59.6%」と他に比べ低い評価となった。	B	・基礎基本の定着によって学力を安定向上させ、各教科科目の「単位修得」に向けた学習環境の整備点検と、安心してスクーリングに通学して学び、自己肯定感を醸成できる「環境整備」に粛々と取り組む。 ・「継続は力なり」という基本を確認し、自己に向き合い意識を向上させ、卒業後の社会参画・自己実現の成就に向けて体験探究し行動できる態度の育成指導も併せて行う。 ・悩みを相談できる体制については保護者が「56.3%」,生徒「61.7%」という評価であり、心の面での支援体制確保を目指す。	3	・通信制課程で就学が困難な生徒が、家庭や地域でも生活上の困難を抱えている可能性を鑑みて、社会性の涵養につながる指導を工夫してもらいたい。 ・学習を続けていくうえで、また仕事をしていくうえでも、心身の健康が不可欠であることを踏まえ、生徒の生活の支援にも配慮してほしい。 ・学校評価アンケートで、悩みや相談、生き方や道徳に関しての肯定的評価が低くなっている。SCやSSWとの連携を進めて生徒の心の育成に粘り強く取り組んでもらいたい。
4								
5								
6								

留意点 （1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。